

看護コンソーシアム ニュースレター

▶▶▶ ロゴマークが完成しました！

Consortiumの頭文字「C」2つをモチーフとして点対象にデザインし、上下で大学と道内各地の病院を表しています。

絡み合う2本のリボンは両者の共同を象徴し、内側から外側へ広がる形によって、関係が発展し共に成長していく姿を表現しています。

上側にはSCU（札幌市立大学）のカラーである札幌オレンジ、下側には道内の心安らぐ自然を表す緑を使用しました

制作者：札幌市立大学デザイン学部 藤本 夢叶さん



看護コンソーシアム

1-「EBN研修 ワン・ステップ！エビデンスを探して、読み解き、使ってみよう！」 2年目もスタートします！

昨年度より開始された EBN 研修は、今年度も継続して8月よりスタートします。今年度は、新たに15名の受講生を迎える予定です。さらに、ファシリテーターの皆様にもご協力をいただきながら、より充実した内容へとブラッシュアップし、研修を実施していきます。

本研修は、**EBN（Evidence-Based Nursing）**を基盤として、エビデンスを探し、読み解き、実践に活かす力を養うことを目的としています。文献検索や論文の読み方について、講義と演習を組み合わせたプログラムで構成されています。



今年度は、受講生の参加しやすさを考慮し、全4回のプログラムへと一部見直しを行いました。エビデンスを臨床の場で活用するためのプロセスやノウハウを学び、日々の実践に変化をもたらせるような研修を目指していきます。

ホームページの内容も充実してきております。
是非、御覧ください！

<https://www.scu.ac.jp/department/nursing/nursing-consortium/>



Nursing-consortium

2 - 「副師長研修 ロジカルシンキングでとらえる副師長の管理課題」 2025年度を振り返る

本研修は、臨床現場で活躍される副師長職の皆さまに、「物事を筋道立てて、論理的に考えることにより、**現場の問題を解決する力＝論理的思考（ロジカルシンキング）**」を培っていただきたいという願いから開講しました。

また、自組織の実情に目を向けることに加え、医療・看護を取り巻く社会的背景や所屬地域の特徴、さらには最近の変化を捉え、それらを受講者間で共有する機会としました。さらに、副師長としての自身の強みや課題を見だし、問題解決技法を用いた看護管理実践の展開を通して、その先の管理者としての行動へと結びつけることを目指しました。

実際に受講された、道東の病院に勤務されているA副師長さんに、「ロジカルシンキング受講と現在の看護管理」について伺いました！

「問題解決技法を学んでからは、日々の業務において課題を整理しながら考えることを意識しています。」

「特にMECE（Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive）の考え方を活用し、業務上の問題が発生した際には、原因を漏れなく整理し、多角的な視点で分析するようになりました。」

「また、スタッフからの相談や部署内の課題についても、感覚的に判断するのではなく、事実を整理した上で解決策を検討する習慣が少しずつ身に付いたように感じています。」

これからも、問題解決技法を活用し、スタッフと共に課題を整理しながら、より安全で円滑な看護実践に繋げていきたいと思っています。」



Aさんのご様子から、看護管理者として研修内容を実践に活かしながら、スタッフとともに部署の課題に向き合っておられる姿が伝わり、大変印象的でした。管理者の悩みは尽きることはありませんが、その悩みの一つひとつが、次のステップへの糧となることもまた確かです。受講された22名の看護管理者の皆さまが、直面する悩みの中から「真の問題」を見だし、課題を問い直しながら、さらなる前進につなげていかれることを期待しております。

企画・発行

札幌市立大学教育支援プロジェクトセンター看護コンソーシアム部門

部門長：樋之津淳子

メンバー：鬼塚美玲、栗原知己、渋谷友紀、高橋奈美、武富貴久子、西川めぐみ、樋口佳耶、牧野夏子、松野千代美、吉田実和、藤井瑞恵（帯広大谷短期大学）、山本勝則（札幌保健医療大学）、村松真澄（旭川市立大学）、森川由紀（天使大学大学院）、小島汐織（コーディネーター）